



15

水圏生態分野

多様な生物群集の成立と維持機構を理解する

水中で生活する動物や植物は、陸上とは異なるユニークな生活史を持っています。また、近年の絶滅種の多くが淡水生物であるように、水圏生態系は人間活動に伴う環境変化には特に脆弱です。このかけがえのない生態系を保全するため、私達は野外調査や培養・飼育実験などの手法を用い、プランクトンや底生動物など湖沼・河川・沿岸域に棲む多様な生物の栄養摂取機構や遺伝的特性、寄生・共生などの種間関係や生物群集の構造決定機構を明らかにする研究を行っています。

Lab. DATA

動物の生理生態、食物網動態、生物間相互作用

占部城太郎 教授

牧野渡 助教

http://meme.biology.tohoku.ac.jp/macroeol/urabe/JUrahe_lab.html



在学生

Interview



修士2年
村上 純一

近年、「干潟」の生物多様性や浄化機能の重要性が注目されています。私は震災と津波により新しく出来た仙台湾沿岸の干潟で、魚類の捕食に対する干潟生物群集の応答を研究しています。また震災復興に伴う防潮堤工事などが、干潟魚類群集に与える影響を評価し、干潟の保全に役立てたいと考えています。



topics



日本に棲むミジンコ (*Daphnia pulex*) の遺伝特性を調べたところ、北米からの侵入種で、雌だけで存続する絶対単為生殖型集団であることが明らかになりました。